

特定鳥獣4種の保護管理計画の考え方と効果的な進め方

⑤ニホンザル



特定非営利活動法人 里地里山問題研究所

代表理事 鈴木克哉

HP: <http://satomon.jp/> Mail: info@satomon.jp

1. ニホンザルの生息状況と被害状況

- ① ほとんどの都府県に生息し、全国的には分布域が拡大。ただし地域により状況は異なる。
- ② 群れでやってくるため、甚大な被害
- ③ 人馴れが進行し、生活被害も拡大する。精神的な被害も大きい動物。

2. ニホンザルの管理の考え方（群れ管理の必要性）

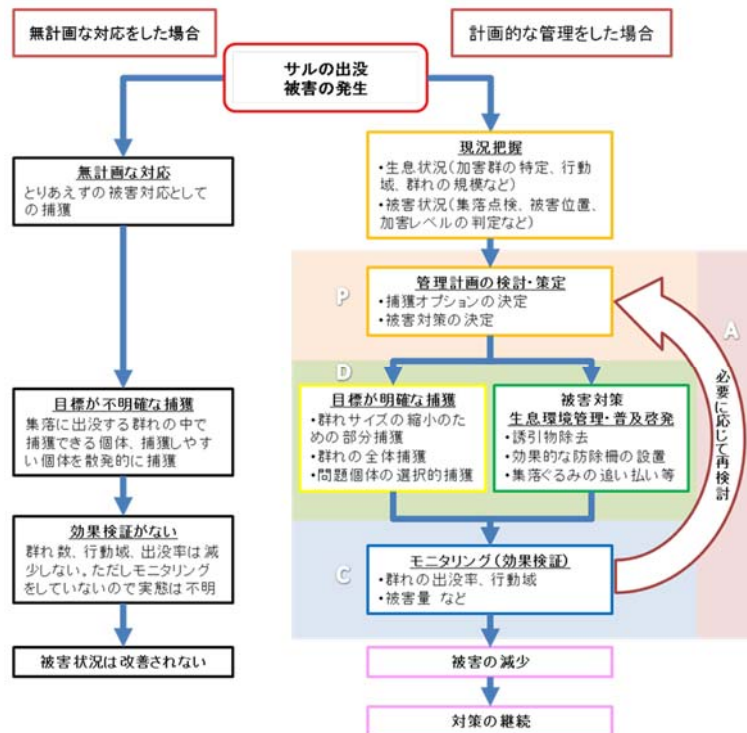
- ① 行動圏を持ち、群れによって特性（個体数・加害程度）が異なるため、群れごとの管理（群れ管理）が必要
- ② 個体数管理と被害管理の組み合わせが重要

3. 効果的な管理の進め方

- ① まず現況把握。大まかな把握からはじめて段階的に進める
- ② 「加害群半減」目標は「加害レベル半減」目標と読み替える
- ③ 優先的に対応が必要な群れには、発信機を装着して、行動域・個体数・加害レベルの把握
- ④ 個体数・加害レベルに応じた個体数管理手法（群れ捕獲、部分捕獲、選択捕獲）を検討する（目的・根拠を明確に）
- ⑤ 捕獲の成果は「見える化」する
- ⑥ 効果的な被害対策を普及する（有効な電気柵・追い払い体制整備等）
- ⑦ 農地・集落・群れ・地域個体群それぞれのスケールに応じた対策と役割分担、主体間連携を考える
- ⑧ 統合的な計画のもと、継続的にモニタリングし、PDCAで進める

4. まとめ

- ① 初期対応が重要（放っておけば加害レベルが進行する）
- ② 被害が進行している地域では、効果的な計画立案が必要（先進地や専門家のノウハウ活用、民間へのアウトソーシングを検討）



さともんのメルマガ会員（無料）募集中

※行政担当者向けに獣害対策お役立ち情報の発信を始めます。
さともん HP から登録または info@satomon.jp までご連絡ください。